

1 検討の必要性

- 外国人区民は令和7年1月1日時点で26,531人。
コロナ禍等で一時減少するも、5類移行後、再び増加に転じている
- 区は、相談窓口の設置や多言語での情報発信、日本語教室の開催など、外国人の暮らしを支えるための取組を実施中。

- **外国人に選ばれる国になれるかどうか**が、我が国の未来を左右する重要な課題
- 基礎的自治体として受入れ環境を整え、**開かれた地域づくりを進めていく必要がある。**

○第3次ビジョンの戦略計画22で位置づけ

国籍や言語、文化などの違いも受け入れて、だれもが心豊かに暮らせるよう、**外国人に開かれた地域づくりに向け、外国人施策のあり方の検討を進め、新たな方針を策定します。**

初級日本語講座・日本語教室ボランティア養成講座の定員を拡充し、外国人が地域で安心して生活できるよう、日本語学習の場を充実します。

No. 22 - 6		年度別の取組計画			
令和8年度目標	令和6年度末の現況	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
開かれた地域づくりに向けたあり方の検討・新たな方針の策定	検討	検討	策定	—	策定

2 外国人アンケート (2,130人)

- 外国人5,000名（無作為、Web紙併用）を対象に、生活実態等をアンケート調査
- 8割が「練馬区は住みやすい」
- 約9割が「日本語を聞き取れる・読める」（やさしい日本語を含む）
- 5割強が無料の通訳アプリケーション（Google翻訳など）を活用

3 個別ヒアリング (約200人)

- アンケートでは拾いきれない、個別具体的なニーズを把握するため、ヒアリングを実施
- 認知症対策が必要** ~ 韓国人(50代女性) ~ (来日20年以上、日本で出産子育て経験)
- ・ 日本は介護が必要な外国人が増えていく。人数が増えれば、認知症も増えるだろう。
 - ・ 認知症が進行すると後から学んだ日本語を忘れると聞く。
 - ・ 韓国語に限らず、外国語が話せる介護人材の育成が必須ではないか。

4 本日の検討テーマ

区は様々な取組を進めているものの、アンケートや個別ヒアリング等からは、いまだ課題がある。国や都、地域をはじめ、さらなる取組や協力が必要ではないか？

本日のテーマ

“外国人に開かれた地域づくり”

方針策定に向け、自由に意見交換